



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町 2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL http://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/2020年3月31日



参加企業と学生を交えたパネルディスカッション



参加企業からの実施報告

「次」に「青森県立保健大学による問屋町地区フィールドワークの実施について」青森県立保健大学の古川教授らが説明。5月19日に問屋町全域にて保健大学1年生の授業の一環として、団地内で実施するフィールドワーク(現地訪問、



日本赤十字社青森県支部から事業紹介

1年間の事業成果を報告 インターンシップ導入支援プロジェクト

今年度、青森県の補助事業を活用し、組合の新規事業として取り組んできた「インターンシップ導入支援プロジェクト」の報告会を2月14日(金)に問屋町会館1階会議室で開催し、組合員ら43名が参加した。

組合員企業3社(丸大堀内グループ、青森総合警備保障㈱、(株)青森共同計算センター)が参加し進めてきた同プロジェクトでは、人事コンサルタントの嶋田葵氏をコーディネーターに迎え、インターンシップの勉強会や策定したプログラムの大学生に模擬体験してもらった。各社のプログラムが完成した。今回の報告会は、体験会で3社が実施したプログラムの内容や参加した学生に感想を

発表してもらい、インターンシップへの理解を深めて地元中小企業が負担感なく取り組むためのポイントや実施する時のノウハウを共有することを目指して開催された。

はじめに、嶋田コーディネーターよりインターンシップの概要や国内の実施状況について説明した後、3社の担当者より実施プログラムについて発表された。

担当者からは「社員と学生が一緒になって体験できるプログラムを新しく取り入れたところ学生に好評だった」「ポイントをおさえた上でコンパクトに自社の業務内容を示せるプログラムへの見直しがあった」「手取り給料の仕組みなど社会人に必要な知識を伝えるプログラムを取り入れたと

組合員昼食会

今年度最後の組合員昼食会が2月6日(木)に問屋町会館1階会議室で開催され、組合員ら51名が参加した。

はじめに日本赤十字社青森県支部の近藤事務局長らが「日本赤十字社青森県支部の活動について」紹介。近藤事務局長は「当支部では災害救護活動や救急法などの講習普及活動などを行っている。今後も国内外における人道支援活動の要となり、日本の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字の姿を目指していきたい」と話した。

最後にテックイースト薬局の武井栄養士より「大人の食育について」説明があった。「食事のバランスの基本は一汁三菜。生活習慣病のリスクを下げる食品として主菜でお勧めなのが「魚」、野菜の1日の目標量は小鉢5皿程度の350g。欠食すると次の食事で血糖値が上がりやすいため3食きちんと食べて減塩を心がけましょう」と呼びかけた。

ころ学生に好評だった」と実施した感想が述べられた。

次のパネルディスカッションでは、コーディネーターの進行のもと体験会を振り返りながら学生に感想を伺った。

学生からは「インターンシップは会社に入社した後のイメージが得られる貴重な場だとあらためて感じた」「その会社だからできることを体験できた。

組合では、今回得られたインターンシップのノウハウをもとに、次年度以降、卸団地の企業集積を活かし、大学、大学生、組合員企業のハブとなって連携を図りインターンシップを実施する「多業種連携型インターンシップ」の実施検討を進めていく。

実施調査)への協力を依頼した。

2020年度事業計画など承認 第8回理事会

2020年度事業計画などを審議する第8回理事会が2月25日(火)、問屋町会館で開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また事務局からは、除雪費の中間報告や事業計画立案アンケートの調査結果、労務対策事業の参加状況などについて報告を行った。

主な案件審議は次のとおり。

案件一、2020年度事業計画の骨子について

案件二、事業委員会からの意見

マインドフルネスを体験

青友会親睦交流会

問屋町支店長・所長連絡会(青友会)の第29回親睦交流会が2月26日(水)、ウェディングプラザアラスカで開催され、同会会員ほか20名が参加した。

今回は、青森市内の市民スクールなどでインストラクターを務める相馬かほる氏を講師に招きマインドフルネスを体験した。

マインドフルネスとは、瞑想をしながら自分の内面に意識を集中することで日常の雑念や思考から意識を反らし、頭や心の中を整理していく方法のこと。実践することで集

見について

案件三、労務対策委員会からの意見について

案件四、環境対策委員会からの意見について

案件五、組合員の脱退及び土地取得並びに取得資金の借入について

案件六、組合員施設の賃貸承認について

案件七、共同物流事業の委託料改定について

案件八、2019年度第9回理事会の日程等について

理事会終了後には青森問屋町配送(株)の第4回取締役会が開かれ、提出案件が全て原案どおり承認された。

中力アップやストレス軽減などが期待できることから、アメリカでは多くの企業が研修プログラムに取り入れており、日本国内でも導入する企業が増えている。

マインドフルネスは、「姿勢を整える」「体ほぐす」「呼吸を練習する」「瞑想する」の流れで行う。途中、雑念が頭をよぎることもあるが再び呼吸へ意識を戻し、これを繰り返す。

相馬氏は「マインドフルネスは、1回あたりの時間が大切ではなく繰り返し行うことが重要。毎日5〜10分実践することでリラクセスできるの、気軽にはじめてみてほしい」と語った。

2020年度事業計画立案アンケート結果まとめ

組合では2020年度の事業計画立案に向け、組合員を

対象にアンケート調査を実施した。調査結果は次のとおり。

組合員施設の課題については、これまで同様「老朽化対策」が最多で56社。10社が3年以内の新築や増改築を計画していると回答した。

また、近年の人材確保難に関連してインターンシップの実施状況について聞いたところ、「毎年実施」が21社、「実施に向けて検討中」が8社に

加え、「学生の職業意識育成になるなら協力してもよい」が12社と心強い回答を得た。大規模な自然災害が多発していることから企業防災への取り組みについても調査。BCP(事業継続計画)の策定については、「策定済み」が17社、「策定予定及び検討中」があわせて36社とまだまだ策定が進んでいない現状が浮き彫りとなった。組合に希望する支援策では、「ハザードマップ情報の提供」を望む声が多く67社、「基礎的な企業防災情報の提供」が62社、「具体的事前対策情報の提供」

が39社とつづいた。組合ではアンケート調査結果を参考に、新年度の事業計画策定に取り組み。



マインドフルネスを体験する参加者

問屋町100日ウォーキング 結果報告

組合では2019年8月23日から11月30日までの100日間、チームで歩数を競い合うコンテスト「問屋町100

日ウォーキング」を開催し、17社から36チーム、108名が参加した。

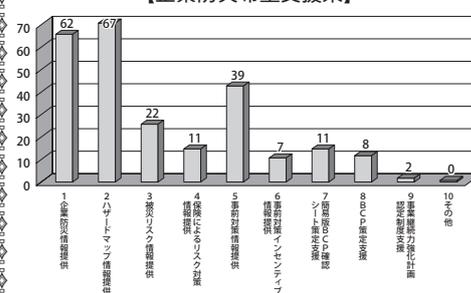
同コンテストは新たな健康づくりの取り組みとして、組合員従業員の運動不足解消や運動習慣のきっかけづくりとしてもらうため開催。花王(株)が提供している健康支援サービス「ホコタッチ」システムを利用して、3人1組の総歩行数を競い合った。ホコタッチ専用のポータルサイトでは、個人や企業別のランキングも公開され、参加者の歩

行意欲向上に一役買った。優勝から第3位チームまでの結果は次のとおり。

順位	会社名	チーム名	総歩行数	1人あたり1日平均歩行数
優勝	㈱金竹成家	チーム40	4,205,699	14,019
準優勝	和田ゴム販売㈱	ヤングマン	3,663,518	12,212
第3位	㈱金竹成家	倉庫A	3,658,853	12,196

問屋町100日ウォーキング 入賞チーム結果

【企業防災希望支援策】



短期間のイベントや警備には
レンタル無線機が最適です

お問合せ
下さい

(株)電技パーツ

電子部品
無線各種
PC関連
防犯カメラ
放送設備

青森市第二問屋町3-6-44
TEL: 017-739-5656
Email: shop@dengiparts.co.jp

未来をネットワークする
JAC www.jacopen.co.jp

ホームページ作成やサーバの運用管理は
弊社データセンターにお任せください。

株式会社 青森共同計算センター

〒030-0113 青森市第二問屋町3-10-26
電話 017-771-1111 FAX 017-771-1123

ボルダリングで健康づくり

今年度2回目となるボルダリング教室が、2月17日(月)に組合員であるK・フロスピ(株)が問屋町内で運営するボルダリング施設 (Grinde Climbing) にて行われ、組合員従業員18名が参加した。施設内には登る難易度に応じたコースが多数あり、参加者は簡単なコースから順番に挑戦した。参加者は腕や足の使い方や順番をよく考えながら登るボルダリングに夢中となり、登り切った達成感を味わった。室内でできるボルダリングは、冬期間の運動不足解消にも一役買っている。



ボルダリング教室

業務報告

…主要事項…

2月 3日▽第13回景観推進管理委員会

- ▽県流通団地連絡協議会 合同業界説明会(青森公立大学)
6日▽組合員昼食会
7日▽県運営診断
▽第9回問屋町従業員親睦交流会
9日▽第4回おおほし雪灯りまつり
13日▽第2回事業委員会
▽普通救命講習会
14日▽インタラシップ導入支援プロジェクト報告会
17日▽金融審査会
▽第3回労務対策委員会
18日▽問屋町新年合同厄払い
19日▽第2回企画情報委員会
20日▽第3回環境対策委員会
▽県流通団地連絡協議会 女子職員研修会

- 25日▽第8回理事会
▽青森問屋町配送(株)第4回取締役会
26日▽問屋町支店長・所長連絡会第29回親睦交流会
28日▽問屋町経営同友会第4回役員会
…問屋町…
ビジネススクール：
4日▽決算書の読み方・活かし方(損益計算書編)①
6日▽決算書の読み方・活かし方(損益計算書編)②
13日▽職場を円滑にする「報・連・相」
18日▽決算書の読み方・活かし方(CF計算書編)①
20日▽決算書の読み方・活かし方(CF計算書編)②

経済雑感 第一〇三回

人事労務コンサルタント 嶋田 葵

前号に引き続き、人事労務コンサルタントの嶋田氏による経済雑感をお送りする。

皆さんは「働き方改革」と聞いて何を思い浮かべられるだろうか。

国が示す「残業時間の削減」「有給消化率の向上」「同一労働同一賃金」に加えて、新型コロナウイルス対応の中で取り上げられることが多くなった「リモートワーク」「時差出勤」「タイレアウト」といったことも思い浮かべた人も少なくはないと思う。



人事労務コンサルタント 嶋田 葵氏

メディア等で様々な会社の取り組みを見ている中で、うちの会社にはない制度だなあ。職種やオフィス環境の都合で、やりたくてもできない。施策を作る人がいない。といった焦りを感じた経営者や担当者の方もいらっしゃるのではなかろうか。

働き方改革は、

「これさえやっておけば大丈夫。」というウルトラCの技はなく(残念ながら)、現状を正しく把握・分析し、何から取り組んでいけばいいのかが順序立てて計画・実行していくことが求められる想像以上に地道な物なのである。取り組みを進めていくため

には、中小企業は要員の少なからず、なかなか難しいところがあるが、そんな中でも比較的取り組みやすい手法がある。それは、経営層から変わるということである。会社全体で一気に取り組みを進めていく手法もあるがかなりの工数と労力を要する。

よって、まずは経営層が変わって従業員に見せていくのである。

残業時間削減のために、経営層自ら勤務内容の見直しを行い、全ての業務を定時時間内に終わらせた事例がある。この事例では、経営層自らが、定時時間に業務を終わらせるために「打ち合わせ前に資料」目を通しておくこと

資料の読み上げ時間をなくし、打ち合わせの際は議論のみ、「決済のタイミング」を午後から朝一に変更し、それに伴う部下からの相談も定時時間内に受ける」等の取り組みを実践すると同時に、理由なき「さすべき」業務もどんどんなくしていったのである。経営層が動くことで、会社として「働き方改革」にどう向き合っているのか、そしてその重要性が従業員に明確に伝わった事例だった。

いかがだろうか。これを読んで「うちにもできそうだな」と思うのか。「うちは無理だな」と思うのか。「働き方改革」の第一歩は、前者である。是非、その一歩を踏み出す企業が増えることを願っている。(元)

境建材株式会社

〒030-0131 青森市問屋町一丁目14番1号
本社 ☎(017)764-5581 FAX (017)728-7275
工事部 ☎(017)764-5585 左官材料・タイル専門 ☎(017)728-7266

- 商事部: 新銘ラ官材、全般木材、一般木料
タイル工務、衛生ヒューボイラー
イ器管、陶器ヒューボイラー
工事部: 内装工事、タイル住宅、防風工事、防風工事、水工工事、水工工事



みちのくコカ・コーラボトリング株式会社

本社 岩手県紫波郡矢巾町広宮沢1-279 TEL 019-698-3111(代表)
青森営業所 青森県青森市第二問屋町三丁目4番12号 TEL 017-739-3511

カンゼ 青森県代理店
グンゼ製品・婦人洋品・沓下・タオル卸
多田商店
本社 青森市問屋町 TEL017-738-4237(代)

人と大地のハーモニー
ISEKI 農業機械販売
株式会社 中セキ東北
青森支社
〒030-0131 青森市問屋町2丁目11-23
TEL 017(738)1331 FAX 017(738)8834

